

島原高校生徒会 平和宣言

「あの悪夢のような戦争 身の毛のよだつ凄絶悲惨 肉親を人の子を かえり見るさえ堪えがたい真情
誰か平和を祈らずにいられよう 茲に全世界平和運動の先駆として 此平和祈念像が誕生した 山の如き聖哲
それは逞しい男性の健康美 全長三十二尺余 右手は原爆を示し左手は平和を 顔は戦争犠牲者の冥福を祈る
是人種を超越した人間 時に佛時に神 長崎始まって最大の英断と情熱 今や人類最高の希望の象徴」

これは、平和記念像の作者である南島原市出身の芸術家 北村西望氏の言葉です。70年前の今日、8月9日午前11時2分、一発の原子爆弾が長崎上空500mで炸裂しました。それは一瞬のうちに長崎を死の町へと変え、約74,000人もの人の命が奪われました。そして、2015年の現在でも、イラクやウクライナにおける内戦、イスラエルとパレスチナの交戦など、民族問題や宗教問題を背景とした争いは絶えることなく続いており、多くの尊い生命が奪われています。日本では、戦争の惨禍に再び遭うことの無いよう、恒久の平和を目指して多くの方が努力してこられ、「戦争放棄」「戦力不保持」「交戦権の否認」の規定を織り込んだ憲法9条が採択されました。そのおかげで、今の私たちは、日々平和に過ごせています。

しかし、今、その解釈の変更をめぐる議論がなされています。それは、技術革新の急速な進展、大量破壊兵器の脅威など日本を取り巻く環境が大きく変化したため、「集団的自衛権の行使を容認してはどうか」というものです。選挙権が18歳に引き下げられ、自分の意志をはっきりと表明する時が間近に迫った中で、私たちは受身になってしまうのではなく、一人ひとりが真剣に平和とは何なのかを考え、慎重に判断していくべきなのではないでしょうか。

また、近年、動画サイトYoutubeに、いじめの現場や動物の虐待の様子などを投稿する人が増えてきています。もはや善悪の判断すらつかない状況に陥っている人が多くなってしまっているのが今の日本の現状だと言えます。

このような状況の中で私たち高校生がやらなければならないこと。

それはまず、自分や周囲の人たちについて考えることです。他人と自分の価値観は違う、だからこそ価値観の違う他人を受容する寛大さを持つことで、おのずと自分の心に余裕ができ、私たちが守るべきものの一つひとつに目を向けることができるようになります。そして、自身の周りだけではなく、世界全体に目を向け、自らの意志をはっきりと持つことです。それぞれがその意識を持ち、積極的に行動していくことが大切です。

私たち島高生は、自分と他人との違いを互いに認め合い、尊重し、世界全体に目を向け、平和について一人ひとりが真剣に考え、積極的に行動していくことを誓います。

平成27年8月9日 島原高校生徒一同